
初恋行方(再会編 前編)

虹虫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋行方（再会編 前編）

【Nコード】

N7265V

【作者名】

虹虫

【あらすじ】

初恋の行方（告白編）のその後。

再会編 前編

彼女と別れて十数年。

あれから彼女のことを忘れたことはなかった。

僕も今年で30歳。

結婚を考える歳だが、彼女のことが気になって
なかなか決心できずにいた。

彼女は どうして いるだろうか？

もう結婚はしているのか？

連絡を取る術もなく、ただただそんなことを思っているだけだった。

小学校3年生で初めて彼女と同じクラスになり、

5年生のとき彼女に恋をした。

中学3年で告白し付き合ったが、

高校が別になり自然消滅。

それきり連絡先も知らず、居場所さえわからない。

噂では県外の大学に行ったらしいが、

卒業後、地元に戻ってきたのだろうか？

そんなある日、僕は東京へ遊びに行った。

街中を歩いていて、前を見るとふと目に留まった女の子がいた。
なんとなく見たことがあるような気がしたが

東京に知り合いがいるはずもなく、気のせいだと通り過ぎる。

夕方になり、帰るため電車に乗った。

ちょうど帰宅ラッシュで電車内は満員。

身動きもとれない状態だった。

僕の前には若い女の子が背を向けていた。

しばらくすると、窮屈だったのか、その女の子がこちらを向いた。さつき街で見かけた子だった。

近くで見るとやはり誰かに似ている。

『だれだったかなあ？』

と考えながらじつと女の子を見ていると

その子が気がついて僕の方を見てきた。

少しの間そのまま目をそらさず見ていたが

ずっと見つめ合っているのもおかしいので目をそらした。

その子はまだこっちを見ているようだ。

僕がずっと見ていたので変に思われたか？

などと思ったが知らん顔した。

その後目をそらしたものの、ちらちらと見てくるので

『なに見てんだ』

くらいのこと言ってやろうとその子を見ると、

「テンちゃん？」

と、その子が言ってきた。

僕は、はっとした。

テンちゃんというのは初恋の彼女が僕に付けたあだ名。

彼女しか知らないはずなのに・・・。

彼女だったのだ。

見たことあると思ったのは間違いではなく

そこにいたのは別れた後もずっと気にしてた彼女だった。

「詩織？」

と僕が言うつと。

「うん。 やっぱテンちゃんだった。
なんか見たことあると思っただよね！」
と彼女が嬉しそうに言った。

彼女も家々に帰るようで一緒に帰ることになった。
大学卒業後地元に戻ってきたらしい。
今日はたまたま東京に遊びに来たようで、
この嘘のような偶然に2人で驚いていた。

電車内も空いてきたので席に座り話をした。

「昼間も街中で詩織のこと見かけたんだけど。」

「うそー！？ 声かけてよ！」

「わかんなかったんだよ。」

なんか見たことあるな？ とは思っただけどさ。

さつきも目の前でしばらく見てたけど重い出せなくて。」

「だろうね、結構な時間私のこと見てたもんね。」

「やっぱ気づいてた？」

「あんだけ見られればね。」

何こいつ？ と思つて見返したらテンちゃんに似てたから

声かけてみたんだ。」

「よくわかつたじゃん！」

「そりゃ、 まあね・・・。」

詩織は何か言おうとして言葉を飲み込んだ感じだった。

地元の駅に着いた。

「あゝ。 疲れた！」

「詩織、何できたの？」

「送ってもらった。」

「彼に？」

「違つよ！ お母さんに！」

「そんなムキにならなくても・・・。 帰りは？」

「うん。 タクシーかな？」

「俺車で来たから送ってくか？」

「ほんと！？ 助かる。 お願いします。」

「じゃ、駐車場まで・・・。 おんぶしようか？」

「なにいつてんのー！ 歩けるから！」

「だよね。」

「そうだ、携帯の番号教えて！」

「今度一緒に遊び行こうよ。」

「いいよ。」

「でもテンちゃん彼女とかいないの？」

「私と遊び行つて大丈夫？」

「大丈夫だつて。 彼女いないし。」

番号を交換し、彼女を家まで送つていった。

「今度一緒に遊び行こうぜ。」

「どこか行きたいところあったら付き合うからさ。」

「うん。 わかった。 また連絡するね！」

念願の彼女と再会、連絡先も交換できた。

たまには遠くに遊びに行くのもいいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7265v/>

初恋行方(再会編 前編)

2011年10月9日13時16分発行